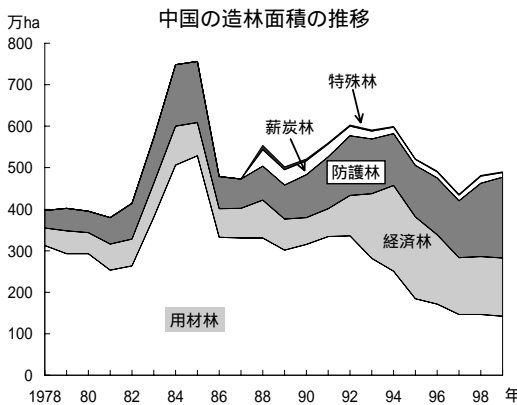


統計の眼

中国における造林活動の動向  
 中国における造林活動は、一九五〇年代前半から進められてきたものの、安定的な造林活動が実施されるようになるのは七〇年代末以降である。当時の中国政府は、改革開放政策のもとでの国家経済の発展には国土保全につながる森林・林業の発展が重要であるとし、大型植林プロジェクトや植林キャンペーン等の森林造成政策を集中的に打ち出した。こうした後押しにより、八四、八五年には造林面積が七百万haを超える「造林ブーム」が起こった。その後、造林面積は年五百万〜六百万ha程度に落ちつき、現在に至るまで継続的な造林が行われている。

林種<sup>注</sup>別の増減を見ると、八〇年代前半には、経済発展による木材需要の増大により、木材生産を目的とする「用材林」が増加した。その後、九〇年代前半になると農村においても現金収入が必要となってくる中で、用材林よりも早く収入に結びつきやすい果樹等の「経済林」が増加した。そして、九〇年代後半以降になると、洪水や「断流」、砂嵐等の自然災害が深刻化してきたことから水土保全機能が高い「防護林」が増加している。

以上のように、中国では近年比較的安定した造林活動が行われている。しかし、中国の場合、日本とは異なり、気候条件が厳しい地域が多く、また巨大な人口に



資料) 国家林業局調べ

より開発圧力が著しい。さらに、その地域に応じた管理技術が未発達な場合もあり、せっかく造林した樹木が成林しないケースが少なくない。さらに、水土保全にも、地域住民の経済向上にも同時に効果のある森林造成が必要となっている。人々の生活を脅かす深刻な自然災害が各地で多発する中で、経済的な問題も同時に解決しなくてはいけないという難しい問題を抱えながら、中国では造林活動が実施されている。

(注) 中国の森林は、用途別に用材林(主に木材生産)、経済林(果樹や茶園等)、防護林(水土保全等)、薪炭林、特殊林(學術林)の五つに区分される。